

2011.7.3

香港 花木

7月1日に華々しく行われた共産党90周年記念行事のハイライトは、胡錦濤総書記による「重要講話」であった。講話の翌日、北京で日本人マスコミ関係者に感想を聞いたところ、新鮮味がなくあまりぱっとせず、本社紙面でも一面扱いする内容はないと判断されたところぼしていた。

今回の「重要講話」の意義がはっきりするまでにはまだしばらく時間がかかると思われるが、私が興味を持ったのは「群衆」、すなわち一般大衆を相当意識した演説だったということである。下記をご覧になれば一目瞭然のように演説のあちこちに「群衆」という単語がちりばめられ、「大向こう」に訴えかけようとする内容だったように思われる。新華社の報道等によれば、国民に一番受けた部分もこの「群衆」のフレーズで、特に、「只有我们把群众放在心上，群众才会把我们放在心上；只有我们把群众当亲人，群众才会把我们当亲人。」（我々が群衆（大衆）を心にとめてこそ、群衆（大衆）も我々のことを気にしてくれる。我々が群衆（大衆）を家族のように扱ってこそ、群衆（大衆）も我々を家族と思ってくれる。）というフレーズが、今回重要講話の中で最も印象に残る部分だったようだ。（たとえば <http://news.xinmin.cn/rollnews/2011/07/02/11279647.html> 参照。）



↑「群衆」というワード（黄色）があちこちにちりばめられている。

そこで、共産党もとの北京の群衆がどのような生活を送っているのか、演説の翌日、北京郊外の「西店村」に出かけてみた。

「西店村」は北京市中心部から南へ地下鉄 5 号線の終点「宋家庄」まで行き、更にそこから「亦庄線」に乗り換えて終点近くまで行ったところにある「同濟南路」駅の近くである。北京の環状道路で言えば最も外側の「6号線」に位置する、都市と農村の境である。「亦庄線」沿いは地下鉄が通ってから大規模な開発が進められ、工業団地や集合住宅が続々と建設されていることで知られている。北京在住の方でもこの辺りには特段の用がなければまず出かけないところではないだろうか。



← 地下鉄亦庄線「同濟南路」駅前で客待ちする三輪車

三輪車で 10 分程南に河を渡ると「西店村」である。この地を訪ねたのは、最近、北京晩報で、ここで大規模な「土地収用・都市開発（拆迁）」が始まったと報道されており、興味を持ったためである。<http://www.people.com.cn/h/2011/0628/c25408-2330952854.html>



←西店村の街頭

西店村では既に大々的な取り壊しが始まっていた。三輪車の運転手も西店村の出身で、「取り壊し」の感想を聞くと、「取り壊しがあつてこそ金も手に入る。やっとここまで順番が回ってきたと思ったよ。」と非常に前向きに受け止めていたのが印象的だった。



西店村も1年後に行けば跡形もなく、綺麗なマンションが林立していることだろう。最近北京では「取り壊し実施規則」が制定され、取り壊される建物の補償も手厚くなるとともにその支払時期も前倒しされるようだ。この規則は基本的には都市部（国有地）が対象だが、報道によれば農村部（集団所有地）にも準用されるようである。西店村の近くにはマンション販売センターがあり、そこで価格を尋ねると、ここですら「平米2万元（26万円）から」ということで大変驚いた次第である。

(以上)